

挨拶

会長
吉野 浩 行



皆様、こんにちは。ただいまご紹介いただきました吉野でございます。昨年度に引き続き、今年度も日本知的財産協会の会長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

ご来賓の方には、本日ご出席をいただきましてありがとうございます。また、会員企業代表の方々、それから特に、多忙な業務のかたわら広範囲な協会の活動を献身的に支えてくださっている役員はじめ、専門委員会の幹部の方々のご尽力にもこの場を借りてお礼を申し上げます。

おかげさまで、総会の報告にありましたように、当協会は年を追って発展中でございます。最近世の中は、おおむねどの業界、あるいはどの企業も大変な好決算で、今朝の日経によりますとR&D、研究開発費を増額する企業がほとんどだということで、多分また皆さんも忙しくなるんじゃないかと思われま。そういえば、官のほうでも国の研究開発予算を5年間で25兆円ということでかなり増額をしております。知財の世界はますます忙しくなるだろうと思えます。

また、当協会の発展に伴って、その存在がどんどん大きくなりますから、期待感もどんどん大きくなるというような感じがいたします。先ほど三菱電機の野間口会長より、いろいろな課題をイニシアチブをとって進めていただきたいというお話がありましたけれども、そういう期待もどんどん増えてくるのではないかというふうに思います。協会が果たすべき使命というのは多岐に渡ると思えますけれども、その中の一つに、知財業務に携わる人たちに日常業務では得がたい研さんの場を提供するというようなことがあろうかと思えます。先ほど表彰されました中山さんの話にもありましたように、ここで協会活動に参画することによって、いろいろなことを学べるというような大変良いお話を聞かせていただきましたが、例えば、私が昨年直接参画した協会の活動の中の一つに、さまざまな業界での知財の使い方の違いというのを1回議論してみようじゃないかというような試みがございました。知財の仕事というのは、知財部という企業の中の部門のミッションとしては先ほど野間口さんも仰ってましたけれども、出願件数がアウトプットの形としては示しやすいものではあるわけですが、経営側から見ると、むしろ企業の経営に関して知財がどのようにうまく使えているのか、どう役立っているのかというようなことを示してもらおうということのほうが、より知財のありがたさというか、あるいは貢献度みたいなものが実感できるように思われます。

昨年参加した議論の中では、各業界の方々がお話をされましたけれども、やはりその業界の特性、あるいは競争の状況、マーケットの状況は当時より、相当違うなということをお自身も勉強させていただきました。商品サイクルが非常に短くて、出願して登録になる前に、もう新しい次の技術に移っ

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

ているというような業界もあるし、あるいはたしか建設分野のように、一度始めたら特許の存在、存続期間よりも長い期間同じ技術を使っていくというような業界もあるということで、業界によって大変違うということを教えていただきました。

国の特許制度というものは一つなわけですから、業界がそれぞれ違って同じ一つの制度の下で運営されているわけですが、しかし、いろいろな業界の知財戦略の話を知ると、あ、そうなのか、じゃあ、我々もこういう点がプラスになるんじゃないかみたいなことが結構あるというふうに私は感じました。協会というのは、各業種からいろいろな人たちが集まっているわけですから、互いにヒントになるようなことが結構あるんじゃないかと。そういうことをお互いにプラスの方向に活用することによって日本の産業界での競争力がもっと高まっていくのではないかとというふうに感じました。したがって、この協会の場というのはそういうことにはかなりふさわしい場であろうと思いますから、そういう機会をもっと増やしていければいいなというふうに感じました。

また、報告にもありましたように、昨年度の知財シンポジウムは、経営のグローバル化に対応した知財戦略ということで基調講演を韓国の企業の方をお願いしたわけですが、知財の仕事というのはどちらかというとやや内向きに固まった仕事になりがちなわけですが、グローバルの時代ですから、他の業界、あるいは日本の外にも目を向けていただいて、さらに幅広い見識のもとに活躍されていくということを期待したいと思います。

私はもう1年やらせていただきますので、会員企業の皆様方がますます発展していくような、幅広いことをやりたいと思いますし、多分、今年の知財戦略の一つの、政府の展開計画の来月に出てくるものの目玉の一つは人材育成なんです。したがって、当協会がその分野でも会員同士が育っていくということと、それから外に対して人材育成の面で貢献できるというようなことを、今年はやっていったらいいんじゃないかなと思っております。

1年間また皆様のご協力をお願いいたしまして、私の挨拶に代えたいと思います。どうもありがとうございました。よろしく申し上げます。